

2018 年度立命館附属校・提携校 英語科授業研究会 《技の習得》

附属校教育研究・研修センター

11月10日(土) 朱雀キャンパスにおいて、英語科授業研究会《技の習得》を実施した。

講師として上智大学文学部英文学科 学科長 教授 池田 真 先生を迎え「CLIL (内容言語統合型学習) によるアクティブ・ラーニングとグローバル人材の育成」をテーマとして実施した。

池田先生から CLIL は、どの教科にも当てはまる教育技法で、21 世紀を支える子ども達の汎用能力を育てる有効な技法であることを伝えていただいた。また、参加者から自分の教科指導のあり方を考える機会にもなったと感想が寄せられ、大変有意義な研修となった。

参加者は、英語科以外の教員も参加し、11 名 (立命館小 2 名、立命館中高 2 名、立命館宇治中高 3 名、平安女学院 1 名、育英西 1 名、他校希望者 2 名) であった。

<研修内容 >

池田先生から、本題に入る前に CLIL の指導が現在急速に広まっていることや小学校の初の英語教科書にも CLIL の内容が取り入れられる予想と CLIL は 1 コマの授業でも実施が可能でフレキシビリティのある指導法であることなどをお話いただいた。



①グローバル教育=アクティブ・ラーニング=CLIL

最初に一枚の絵を見せていただいた。

そこにはいろいろな国籍のメンバーから成るサッカーチームに、日本人だけが入れずベンチに座っている様子が描かれていた。

このイラストを提示された先生の意図は、英語ができないからチームに入れただけでなく、グローバル社会から日本が孤立しているのではないかということ传达了かったとのことであった。その原因は教育のあり方である。今、世界の教育は汎用能力をいかに育てるかという方向に収斂しようとしている。一方、日本は未だに伝統的な教育、基礎・基本の徹底反復で終わっている。グローバル社会を生きていくとき、このままでは孤立するのではないだろうか。CLIL の問題意識は英語の指導法でなく、汎用能力を育てるところにある。CLIL は当然アクティブラーニングであり、CLIL で指導していくとグローバル教育にたどり着くと先生は話された。

②CLIL の定義

CLIL とは、2 焦点の教育法であり、母語以外の言語 (実際には英語) を使って内容と言語の両方を学ぶものである。最近 10 年間くらいでヨーロッパ中に急速に広まり、日本では池田先生たちが 2011 年くらいに紹介され、日本 CLIL 教育学会会員数は 350 人余りで、指導法が徐々に広まりつつあると説明を受けた。

③従来型教材と CLIL 教材

従来型の小学校用の教材では、チキンやアイスクリームなどの単語と肯定文・否定文を示し、その後一生懸命練習して、最後に例文に単語を入れ、クラスメイトに質問するという内容であった。つまり、言語材料と文法を提示 (プレゼンテーション) し、声を出して読み (プラクティス)、例文に単語を入れて、英語でのやり取りをする (プロダクション) という PPP の指導法である。

中学校も同様の PPP の指導法が使われている。ただ、プロダクションの場面では、子どもは相手を見ないで教材のみを見て質問していることがよくある。

次に CLIL の教材を見せていただいた。

家庭科の教材では食品を植物性か動物性かを分類させる内容であった。地理の教科書で、日本が外国に頼っている主要農産物がどこから輸入されているかを資料から考える内容であった。

「学びのどこがちがうだろうか」と先生は質問され、先生から「考える」と伝えていただいた。また、機械的にやらされていては身につかない。考える内容であれば、生徒の体験や知識（スキーマー）を活性化していくと先生はおっしゃった。

④CLIL の理論上の位置づけ

言語として英語を学習する環境と教科内容を学習する環境の両方の要素を持つ指導である。

外国語として英語を教室で学ぶ EFL は文法メインで単語を学んで訳読する。英語の言語構造を学ぶには役立つ。しかし、それだけをやっていることが問題。ESL は英語の世界に放り込まれる環境で例えれば沈むか泳ぐしかない環境である。

さらに指導法として CLIL・CBI と Immersion・EMI の共通点と違いを教えていただいた。どちらも教科内容を英語で学ぶが、Immersion・EMI では言語的指導はほとんどしない。CLIL（ヨーロッパで普及）と CBI（アメリカ、カナダで普及）は言語的指導をする。さらに、CLIL はパッケージ化され、使い勝手がいいという特徴がある。

CLIL でも英語の先生が教科内容を教える弱系と、主に非ネイティブの教科の先生が英語で教える強系があり、日本は弱系 CLIL になっているとのことであった。

AL=Audio-lingualism

CBI=Content-based instruction

CLT=Communicative Language Teaching

EFL=English as a foreign language

EMI= English medium instruction

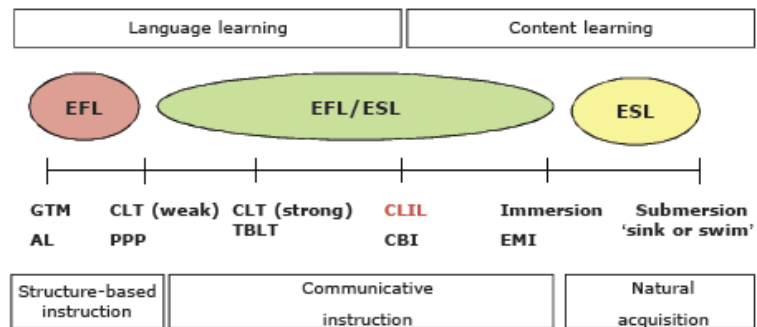
ESL= English as a second language

GTM=Grammar translation method

PPP=Presentation-Practice-Production

TBLT=Task-based Language Teaching

理論上の位置づけ



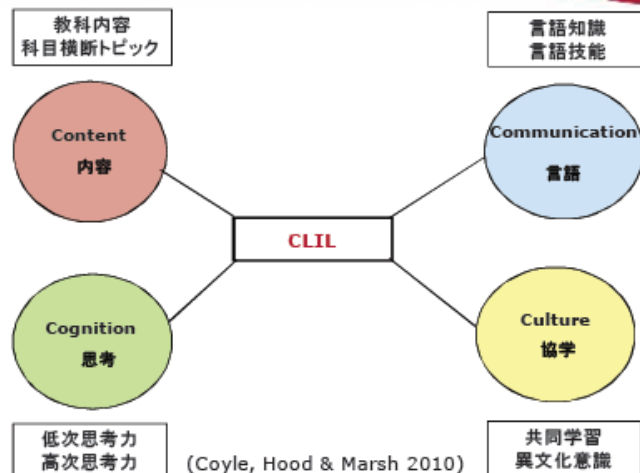
⑥CLIL の「4つのC」

CLIL で一番大事なのが4つのCである。

つまり内容「Content」、言語「Communication」、思考「Cognition」、協学「Culture」である。一番大切なのは思考「Cognition」である。

協学を「Culture」と表記するのは、ヨーロッパではクラスで複数の国籍の生徒が在籍し、共同学習をすれば、自然と異文化意識が育つためである。

CLILの「4つのC」



(Coyle, Hood & Marsh 2010)

「Content」には宣言的知識と手続的知識がある。宣言的知識は教科書に載っている知識である。たとえば、地球温暖化であれば、気温上昇、オゾン層の破壊などのメカニズムが宣言的知識であり、このメカニズムを知った上でどうやったら温暖化を止められるかを考えるのが、手続的知識である。メカニズムが分かり、できれば実生活に結び付けることが大事である。

「Communication」では必ず Content に関わる内容必須語彙や表現を指導する。そして専門的な英語でなく日常的な英語を取り入れていく。文法形式に着目させる、対話しながら授業を進める、日本語を機能的に活用する。授業で日本語と英語の行き来することが普通である。生徒は日本語で体験・知識を得ている。英語だけでは日本語で蓄えられた知識にアクセスできない。英語だけでは学習が深まらないときがある。例えば、ディスカッションが止まることもあるので、この学習ではアイデアを出すことが大事なので、日本語で学習を進めることはよくある。



この学習ではアイデアを出すことが大事なので、日本語で学習を進めることはよくある。英語ができないからという妥協でなく CLIL ではいかに内容を学ばせ、いかに考えさせるかが大事である。学習を最大化するためには必要に応じて日本語を使う。また、英語だけで学んでいると日本語で学べない可能性もある。オランダでは英語で学べるときでも、あえてもう一度オランダ語で説明しましょうという指導も行っている。母語活用は否定的に捉えられていない。これを Translanguaging と言っている。

仙台の小学校週 3 時間英語で算数を学ぶ授業を見せてもらった。その他に、放課後の週 1 時間は日本語で補習授業が行われる。算数を学ぶ上で必要な単語やその他の学ぶ上で必要な単語や文法要素が示され、授業が進んでいく。例えば、「notice」という単語の意味が子どもには分からず、その意味を理解していく場面があり、「これが CLIL の指導です」と池田先生から紹介いただいた。

Cognition には暗記する、理解する、適用するといった低次思考力と分析する、評価する、創造すると言った高次思考力があり、低次思考力だけでは汎用能力は育てない。ただ、低次と高次と表記することは抵抗感があり、低次思考力も大事である。しかし、今の日本の教育はここで終わっている。高次思考力は低次思考力と違い答えがないものである。シンキングスキルとして CLIL ではこの思考力を働かせる。

最後の C は Culture である。ペア・グループで学習するということである。ペア・グループで学習を進めることができないと社会に出てから仕事はできない。ペア・グループが最小のコミュニティである。

⑦ CLIL 授業を設計するシートの説明

このシートを埋めることによって CLIL 授業となる。

光村図書の英語教科書には CLIL のページが各学年 2 ページある。中学校の弱系 CLIL である。

その中に、日本史の学習と不規則動詞の過去形を学ぶ内容がある。3 問目で単語を入れて意味内容を持った文章（ディスコース）を作らせる。最終的に歴史上の好きな人物を選んでグループでディスコースを作る内容であった。この学習内容を CLIL 授業シートに落とし込んだ。1 時間の授業では内容により、設計書の項目を全て満たせない場合もある。

CLIL授業設計シート

| Content 内容 | Communication 言語 | Cognition 思考 | Culture 協学 |
|-------------------------------|----------------------------|-----------------|------------------------------|
| Declarative knowledge 教科知識 | Language knowledge 言語知識 | LOTS 低次思考力 | Cooperative learning 共同学習 |
| 日本史の重要人物 | 過去形 | 理解 | グループ |
| Procedural knowledge 活用知識 | Language skills 言語技能 | HOTS 高次思考力 | Global awareness 国際意識 |
| 歴史的意義 現代への影響 歴史観 | 書く 話す | 評価 創造 | 自国の歴史 他国とのつながり 人類への貢献 |

(池田 2016)

⑧CLIL はスマートフォンのようなもの？

文献を見ると CLIL の 10 大指導法が紹介されている。各項目（内容学習と語学学習の比重を近づける、オーセンティック素材の使用、4 技能をバランスよくなど）を見ていくと、今まで言われてきた指導法である。

CLIL に新しいものはない。スマホのようなもので、いろいろな従来の指導法をパッケージ化したものである。CLIL は先ほどの 4 つの C を入れることによって CLIL になる。伝統的な教え方は Instruction だが、CLIL は Interaction である。

⑨CLIL パッケージ：4C と 4T

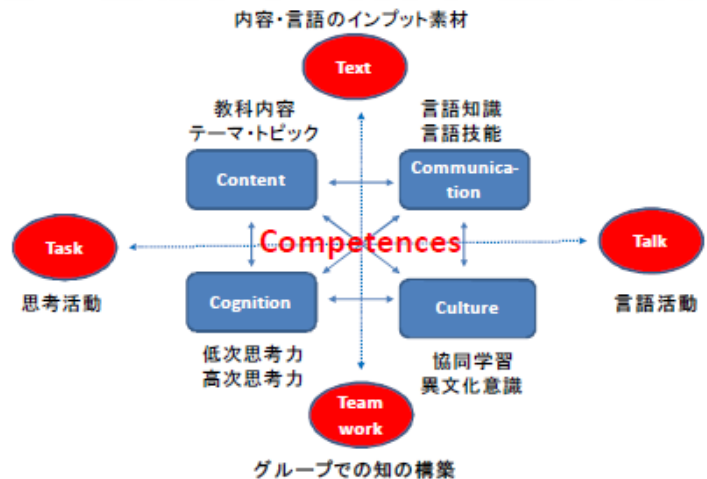
CLIL で一番大事なものは汎用能力である。汎用能力を池田先生がまとめられたものを提示いただいた。世界の教育では育てていく目標になっている。ビジネスではソフトスキルと言うらしい。

CLIL はその汎用能力を育てるものであり、先ほどの 4 つの C と先生は 4 つの T も上げられている。

Text として内容と言語のインプット素材を取り上げ、Task で Exercise や Practice でなく思考活動させる。

言語活動 (Talk) をし、共同学習 (Teamwork) をして最終的に大げさに言うと「知の構築」を図るものである。

CLILパッケージ: 4Cと4T



⑩検定教科書を使つての CLIL 指導

難しいことはできないが、1~2 時間の CLIL 的活動は可能である。

例として中学校 3 年の英語教科書で、ある美術作品を適切な視点で紹介するという教材を紹介いただいた。教科書をそのまま使つると、語彙や文法を学ぶだけで終わってしまう。

CLIL の視点を入れるなら、例えばインターネットで絵画鑑賞の視点をまとめさせる (Input)。そして、得られた視点で名画を分析し、グループで議論する (Processing)。最後には話し合った内容を踏まえて紹介文を英語で書き発表する (Output) という学習になる。設計図は上図のようになる。

この授業では英語で絵画鑑賞法を学び、グループで分析・評価を行い発表する学習活動が行われている。つまり、英語で新知識を獲得し、その知識を活用して他者と思考し、表現する。この学習活動を通して知識活用力、批判思考力、意思疎通力、協働協調力という社会での汎用能力が育まれている。生徒の学習活動が最終的に社会に出たときに 1 本の線で結びつくかどうかが大変重要である。

CLIL は 4 つの C を媒介として教室で学習していることと社会に出てから使う汎用能力がつながっている。これが世界的に向かっている教育である。教室での授業が間接ではつながるが、直接つながっているかを考えて欲しい。

⑪転移適切処理 (Transfer-appropriate processing)

学んだことを再現しやすいのは最初に習得した時と状況が似ているか、学習時に用いた思考力を使うときであるという仮説がある。受験勉強で一生懸命獲得した知識は試験では転移しやすいが、社会に出たとき、汎用的な能力に転化するかという点間接的には転化しているが直接的に転化しない。

CLIL は教室で英語を通して新しい知識を得て、考えて、何かを生み出している。社会に出てから使う能力と同じである。

CLIL は I B と基本的に考え方は同じだが、1 人の教員でも実践が可能である。

伝統的学習者は、英語で質問されると言語的なこと (単語、文法など) で頭がいっぱいになる。CLIL 学習者は言語、内容、思考のバランスよく考えられる。このような子どもを育てたい。

CLIL 絵画授業の設計図

| Content 内容 | Communication 言語 | Cognition 思考 | Culture 協学 |
|-------------------------------|----------------------------|-----------------|------------------------------|
| Declarative knowledge 教科知識 | Language knowledge 言語知識 | LOTS 低次思考力 | Cooperative learning 共同学習 |
| 絵画の鑑賞 | 受動態 絵画関連語彙 | 理解 | グループ クラス |
| Procedural knowledge 活用知識 | Language skills 言語技能 | HOTS 高次思考力 | Global awareness 国際意識 |
| 絵画を見る視点 | 読む 書く 話す | 分析 評価 | 世界の名画 |

⑫CLIL 教材の作成手順

STEP1 内容を決める。

STEP2 それにどのようなコミュニケーション（言語知識、言語技能）を絡めて、どういう思考をさせるか、そしてどのようにグループワーク、ペアワークさせるかを考える。

STEP3 この過程を通して CLIL 教材となる。

内容が決まったら、オーセンティックの素地を収集し、タスクを設計する。

オーセンティック素材には次のようなものがある。

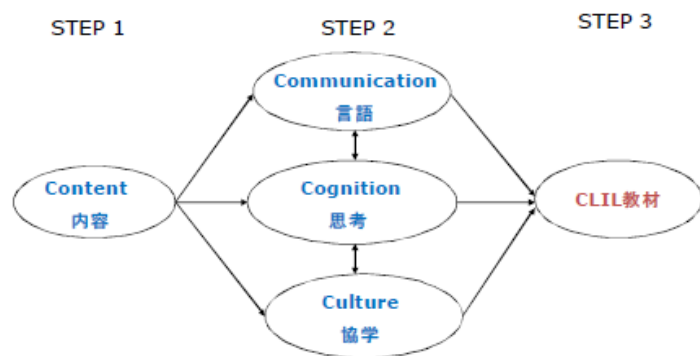
- ・文字情報 書籍、新聞、雑誌、ネット、小説など
- ・視覚情報 写真、イラスト、地図、チャートなど
- ・数学情報 統計データ、表、グラフなど
- ・映像情報 テレビ（報道・ドキュメンタリー）、映画、ネット映像など
- ・音声情報 歌、公演、インタビューなど

タスクには理解タスク（内容提示）、思考タスク（内容処理）、産出タスク（内容産出）があるが、思考タスク（内容処理）が一番大事である。

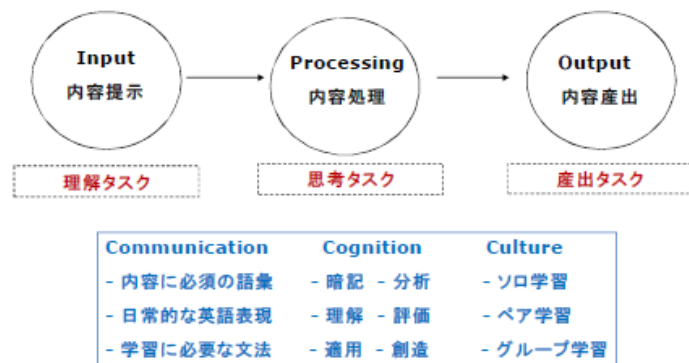
次にあげるタスクの種類を見ていくと授業の構想が浮かびやすいと思う。

- ・列挙（アイディア、事実、知識）
- ・仕分け（分類、順序、ランク付け）
- ・比較（類似点、相違点）
- ・問題解決（分析、評価、意思決定）
- ・共有（経験、逸話、意見）
- ・プロジェクト（調べ学習、調査、報告書、発表）

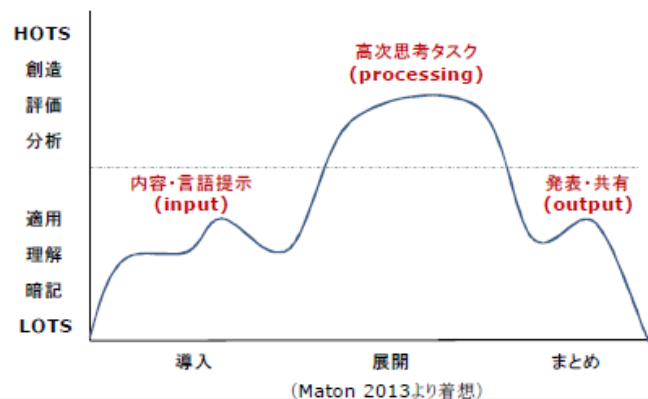
CLIL教材の作成手順



Step 2: タスクの設計



授業における思考力の推移



授業を展開していく中で、授業の中で高次思考タスクの部分を入れて欲しい。

CLIL教材チェックリストを提示頂いた。

(1)内容提示に関する基準

- ・内容と言語に両面において、豊かなインプットを与えているか？
- ・実際の生活で使われているオーセンティックな素材を使用しているか？
- ・文字、イラスト、図、表、映像などの様々なメディアを組み合わせているか？

(2)学習活動に関する基準

- ・学習した知識を実生活で活用するための活動が組み込まれているか？
- ・低次（暗記・理解・適用）と高次（分析・評価・創造）の思考力を使っているか？
- ・生徒同士のインタラクションを通して学びあう共同学習を重視しているか？
- ・内容と言語の両面において、学習を助ける足場が組み込まれているか？
- ・効率よく自律的に学ぶための学習スキル指導を取り入れているか？

(3)その他の基準

- ・内容・言語・学習活動と異文化理解・国際問題をリンクさせているか？
- ・使いやすく、やる気を起こさせる洗練されたデザインになっているか？

高校1年生用の理科 強系 CLIL 授業の紹介 (SSH 用授業)

科目名「科学と人間生活」

授業の進め方

①最初に暖房器具を英語でなんと言うかを教える。エアコンディショナー、オイルヒーター、アンダーフローヒーターなど

②タスク1 熱がどう伝わるかを3つに分類する。

③タスク2 熱の伝わり方を英語で理解させる。

④タスク3 暖房器具を選んで、長所と短所を見つけさせる。時にはデータ、調査も提示する。

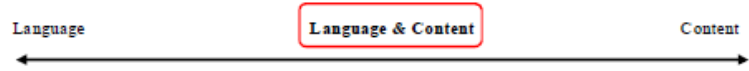
⑤宿題 将来、家を購入したときどの暖房器具を選ぶか？どの原理で熱を伝えるか？

研修では設計図で学習内容を整理した。

⑬ CLIL の評価と助言

CLIL は言語と内容で評価する。
アセスメントの仕方は Test、
Essay などがあるが、パフォーマンス評価が多いと思う。

評価の内容と方法



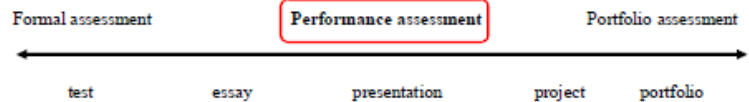
CLIL のテスト紹介 (脳の働き)

生物

問 1 既習している脳の部位を英語で書かせる。

問 2 部位がどのような活動しているかをテストに記載している英文を読み、結びつける。

問 3 スポーツを 1 種目選択し、そのスポーツをするとき、脳のどの部位が重要な役割を担っているかを書かせる。脳の働きを理解していることが必要、また日常の英語を知らないと解答できない問題で、最も CLIL 的と言える。CLIL のテストは言語と内容の両方を測って図っている。



最近の CLIL の流れは内容と言語だけでなく思考力も計る方向に動きが出てきているということで、紹介していただいた。

右表の(1)の語句を穴埋めしなさいという問いは暗記力を聞いている。

(2)の何かを定義しなさいという問題は文レベルで理解を確認している。

(3)の二酸化炭素を減らすには何ができるかを説明しなさいと問題では学んだことを適用(応用)していく問題である。

(1)(2)(3)はある程度、正解がある問題である。

しかし、(4)の首都移転の賛否両論を述べるエッセイや、(5)の新しい首都はどこがいいかをグループでプレゼンする内容は高次思考力を測る問題である。

最後の(4) Academic essays、(5) Group presentations)を評価する場合はルーブリックを使い、コメントをつけてフィードバックをしていくと説明していただいた。

解答形式と思考分類

| | 暗記 Memorising | 理解 Understanding | 適用 Applying | 分析 Analysing | 評価 Evaluating | 創造 Creating |
|-----------------|------------------|---------------------|----------------|-----------------|------------------|----------------|
| 語 Word | (1) | | | | | |
| 文 Sentence | | (2) | | | | |
| 談話 Discourse | | | (3) | | (4) | (5) |

(1) Technical terms: 'Fill in the gaps.'
 (2) Concept definitions: 'Define the terms.'
 (3) Short answers: 'Explain what you can do to help reduce carbon dioxide emissions.'
 (4) Academic essays: 'Discuss the pros and cons of moving the capital.'
 (5) Group presentations: 'Give a short presentation on the ideal site for a new capital.'
 (Adapted from Lin 2016: 115)

最後に、先生は、CLIL のモットーは“Less is more.”である。つまり、内容を絞り、その代わりに世の中のものに結びつけて深く学ぶことであるとおっしゃった。

また、英語が苦手な生徒にも生徒の興味・関心のある内容をできる範囲で考えさせる場面を設定した場合、授業への参加度が高くなった例をご紹介いただいた。考えることは人間の根源的な力であり、能力であるとお話いただいた。

参加者からの質問の回答として、ヨーロッパは言語構造が同じで単語だけの問題になり強系の CLIL は可能であるが、日本では難しい。日本では学習言語を分ける。教師は基本英語で授業するが、生徒には英語しか使えない場面もあるが日本語の知識も必要な部分は日本語を使って (Traslanguge) 学習の最大化することが重要であると仰った。

※参考サイト: 英検 英語教育研究センター: CLIL における内容指導と言語指導の効果的統合法
https://youtu.be/2P7As_avGS0

まとめ: CLIL=グローバル教育

